

生化学的検査(血清蛋白, 窒素化合物)

項目 コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容 器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
血清蛋白								
1001	血清総蛋白 (TP)	血清 0.5 冷	2	比色法 (Biuret法)	6.5～8.3 g/dL	11 生 I		1～3
1006	アルブミン (ALB)	血清 0.5 冷	2	比色法 (BCP改良法)	3.7～5.0 g/dL	11 生 I		
1005	血清蛋白分画 (TP-F)	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (セルロース・ アセテート膜)	ALB : 60.8～71.8 % α_1 : 1.7～2.9 % α_2 : 5.7～9.5 % β : 7.2～11.1 % γ : 10.2～20.4 % A/G : 1.55～2.55	18 生 I	溶血検体は避けてください。 A	2～3
窒素化合物								
1200	尿酸 (UA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	7.0 mg/dL 以下	11 生 I		1～3
1250		尿 2.0 冷	1		0.4～1.0 g/day		24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。	
1201	尿素窒素 (BUN, UN)	血清 0.5 冷	2	酵素法 (ウレアーゼ UV法)	7～20 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 80mg/dL以上	1～3
1251		尿 2.0 冷	1		7～14 g/day		24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。	
1202	クレアチニン (CRE)	血清 0.5 冷	2	酵素法	M: 0.5～1.1 mg/dL F: 0.4～0.8 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 10mg/dL以上	1～3
1252		尿 2.0 冷	1		1.0～1.5 g/day		24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。	
1203	クレアチン	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.2～1.0 mg/dL	11 生 I	A	3～4
1253		尿 1.0 冷	1		M: 170 mg/day 以下 F: 290 mg/day 以下		24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。 A	
1205	アンモニア (NH ₃)	除蛋白 上清液 3.0 凍	11 ↓ 1	比色法 (奥田・藤井変 法)	30～86 μ g/dL	50 生 I	※1 アンモニア専用容器に正確に 血液1.0mlを入れ、激しく転倒 混和後遠心分離し上清3mlを 凍結保存してください。上清 分取時に浮遊物が混入しない ようご注意ください。 A	3～4
5648	尿中アルブミン-随時尿 (尿中マイクロアルブミン- Cre補正)	尿 1.0 冷	1	免疫比濁法	18.0 mg/g・cr 以下	99 尿	A	3～4
1211	アミノ酸分析	血漿 0.9 凍※	7 ↓ 1	HPLC法	P.13※1参照	1種 につき 279 5種 以上 1074 生 II	※1	5～12
5742		髄液 0.9 凍※	1					
1261		尿 3.0 凍※	1			A		

70ページ参照

※1 前日までにお問い合わせください。

※1 アミノ酸分析 基準値

アミノ酸名	血漿 (nmol/mL)	尿 (μ mol/g・creatinine)
Taurine	46.4～128.2	280～2000
Phosphoethanolamine	TRA	7～70
Aspartic acid	TRA～7.2	TRA～12
Hydroxyproline	TRA～18.8	ND
Threonine	74.2～216.1	70～390
Serine	91.5～186.4	120～630
Asparagine	43.8～90.6	51～300
Glutamic acid	12.2～82.7	3～29
Glutamine	418.0～739.8	150～810
Sarcosine	TRA	ND
α -Aminoadipic acid	ND	5～52
Proline	71.3～373.0	ND
Glycine	140.4～427.3	380～3600
Alanine	258.8～615.2	89～560
Citrulline	17.9～48.0	2～41
α -Amino-n-butyric acid	8.1～31.0	3～21
Valine	156.2～360.4	23～66
Cystine	4.7～34.8	13～76
Methionine	15.5～38.6	11～58
Cystathionine	ND	6～37

アミノ酸名	血漿 (nmol/mL)	尿 (μ mol/g・creatinine)
Isoleucine	37.0～100.4	13～46
Leucine	74.2～169.1	24～77
Tyrosine	38.4～89.4	49～230
Phenylalanine	43.5～79.8	27～96
β -Alanine	TRA～11.8	2～110
β -Amino-iso-butyric acid	5.9 以下	TRA～830
Homocystine	ND	ND
γ -Amino-n-butyric acid	ND	ND
Ethanolamine	TRA～10.5	190～530
Hydroxylysine	ND	8 以下
Ornithine	42.6～141.2	TRA～35
Tryptophan	36.2～79.3	22～110
Lysine	125.7～281.9	78～800
1-Methylhistidine	9.1 以下	25～2400
Histidine	63.0～105.2	400～2000
3-Methylhistidine	TRA～8.2	110～340
Anserine	ND	ND
Carnosine	ND	4～74
Arginine	31.8～149.5	8～71
フィッシャー比	2.2～4.3	

ND: 検出感度以下

TRA: 痕跡

生化学的検査(脂質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
脂質・関連物質								
1046	中性脂肪 (TG)	血清 0.5 冷	2	酵素法	50～150 mg/dL	11 生 I	※2	1～3
1040	総コレステロール (T-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法	130～220 mg/dL	17 生 I ※1	※2	1～3
1051	HDL-コレステロール	血清 0.5 冷	2	酵素法 (直接法)	M: 40～80 mg/dL F: 40～90 mg/dL	17 生 I ※1	※2	
1054	LDL-コレステロール	血清 0.5 冷	2	酵素法	70～139 mg/dL	18 生 I ※1	※2	
1042	エステル型コレステロール (E-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	80～170 mg/dL	-		
1043	エステル比	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	65～80 %	-		
1041	遊離コレステロール (F-CHO)	血清 0.5 冷	2	酵素法	25～60 mg/dL	11 生 I		A 2～3
1047	遊離脂肪酸 (FFA・NEFA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.10～0.81 mEq/L	59 生 I		A 2～3
1048	リン脂質 (PL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	150～250 mg/dL	15 生 I		A 2～3
1049	総脂質 (TL)	血清 0.5 冷	2	酵素法・計算	355～710 mg/dL	-	TL=1.5037×TC+PL+TG	1～3
1055	総胆汁酸 (TBA)	血清 0.5 冷	2	酵素法 (酵素サイクリ ング法)	(食後4時間以上経過) 14.4 μmol/L 以下	47 生 I		A 2～3

70ページ参照

※1 総コレステロール、HDL-コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるものの2つの所定点数を算定します。

※2 脂質異常症診断基準(動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版より)

指標	基準値	診断
LDLコレステロール	≥ 140mg/dl	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dl	境界域高LDLコレステロール血症
HDLコレステロール	< 40 mg/dl	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド*	≥ 150mg/dl (空腹時採血) *	高トリグリセライド血症
	≥ 175mg/dl (随時採血) *	
Non-HDLコレステロール	≥ 170mg/dl	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dl	境界域高non-HDLコレステロール血症

* 基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし、水やお茶などのカロリーのない水分の摂取は可とする。
空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

生化学的検査(脂質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
脂質・関連物質								
1060	リポ蛋白分画泳動	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	M α 27~51 % Pre β 8~24 % β 35~56 % F 33~53 % 7~21 % 34~52 %	49 生 I	凍結不可 空腹時に採血し、血清分離後上清を冷蔵し提出してください。 A	3~5
1066	リポ蛋白(a) (LP(a))	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	30.0 mg/dL 以下	107 生 I ※1	A	3~4
1166	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血漿 0.5 凍	9 ↓ 1	EIA法	164~284 ng/mL	219 生 I ※2	※3 早朝空腹時にヘパリンを体重1Kg当り30単位で静注し、15分後に採血し、4℃で遠心分離後、血漿を凍結保存にて提出してください。 EDTA血漿、クエン酸血漿は使用できません。 A	3~9
1069	リポ蛋白トリグリセライド分画定量	血清 1.4 冷	2	超遠心法 酵素法	T-TG 40~170 VLDL-TG 0~151.7 LDL-TG 8.8~34.8 HDL-TG 5.8~31.8 mg/dL	※4	凍結不可 空腹時に採血し、血清分離後上清を冷蔵し提出してください。	5~15
1070	リポ蛋白リン脂質分画定量	血清 1.4 冷	2	超遠心法 酵素法	T-PLi 150~250 VLDL-PLi 1.1~59.5 LDL-PLi 43.3~111.3 HDL-PLi 62.5~156.5 mg/dL	※4	A	5~15
1052	コレステロール分画 (Cho分画)	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース膜)	M HDL-C 17~43 % VLDL-C 2~18 % LDL-C 51~77 % F 22~51 % 1~14 % 45~72 %	57 生 I	凍結不可 A	3~5
1071	アポリポ蛋白A-I	血清 0.5 一種につき 0.3 冷	2	免疫比濁法 (TIA法)	M: 119~155 mg/dL F: 126~165 mg/dL	1項目 31 2項目 62 3項目 以上 94 生 I	A	3~4
1072	アポリポ蛋白A-II			免疫比濁法 (TIA法)	M: 25.9~35.7 mg/dL F: 24.6~33.3 mg/dL			3~4
1073	アポリポ蛋白B			免疫比濁法 (TIA法)	M: 73~109 mg/dL F: 66~101 mg/dL			3~4
1074	アポリポ蛋白C-II			免疫比濁法 (TIA法)	M: 1.8~4.6 mg/dL F: 1.5~3.8 mg/dL			3~4
1075	アポリポ蛋白C-III			免疫比濁法 (TIA法)	M: 5.8~10.0 mg/dL F: 5.4~9.0 mg/dL			3~4
1076	アポリポ蛋白E			免疫比濁法 (TIA法)	M: 2.7~4.3 mg/dL F: 2.8~4.6 mg/dL			3~4
1091	RLP-コレステロール (RLP-C, レムナント様リポ蛋白コレステロール)	血清 0.5 冷	2	酵素法	7.5 mg/dL 以下	174 生 I ※1	凍結不可 糖尿病、冠動脈疾患等の動脈硬化高リスク症例においては、空腹時5.2mg/dL以上をハイリスクとします。 A	3~4

※1 3月に1回を限度として算定できます。

※2 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合のみ算定できます。
また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは区分「D500」の薬剤として算定できますが、注射料は算定できません。

※3 前日までにお問い合わせください。

※4 研究検査のため定常的には検査を実施しておりません。依頼の際は別途ご相談ください。
基準値ならびに臨床的意義が明確にならない項目もございますので、内容をご理解の上、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。

生化学的検査(酵素・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
酵素・関連物質								
1101	AST (GOT)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化 対応法	8~40 U/L	17 生 I	緊急報告値 900 U/L 以上	1~3
1102	ALT (GPT)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化 対応法	6~42 U/L	17 生 I		
1121	γ-GTP (γ-グルタミルトランスペプ チダーゼ)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化 対応法	M: 16~86 U/L F: 12~48 U/L	11 生 I		
1115	ADA (アデノシンデアミナーゼ)	血清 0.5 冷	2	酵素法	4.8~23.1 U/L	32 生 I	溶血は高値の影響がありま す。 A	3~4
		胸水 0.5 冷	1		U/L		※1 A	
1116	グアナーゼ	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.4~1.1 U/L (37℃)	35 生 I	A	3~4
1104	CPK(CK) (クレアチンキナーゼ)	血清 0.5 凍	2 ↓ 1	JSCC標準化 対応法	M: 30~195 U/L F: 30~170 U/L	11 生 I	緊急報告値 1,000 U/L 以上 ※2	1~3
1326	CK-MB定量	血清 0.6 凍	2 ↓ 1	CLIA法	M: 5.2ng/mL 以下 F: 3.1ng/mL 以下	90 生 I	※2 A	3~4
1100	ALP (アルカリフォスファターゼ)	血清 0.5 冷	2	IFCC法	38~113 U/L	11 生 I		3~4
1120	コリンエステラーゼ (CH-E)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化 対応法	168~470 U/L	11 生 I		1~3
1162	トリプシン	血清 0.4 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	210~570 ng/mL	189 生 I	A	3~4
1160	エラスターゼ-1	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集法	300 ng/dL 以下	120 生 II	A	3~4
1150	リパーゼ	血清 0.5 冷	2	酵素法	17~57 U/L (37℃)	24 生 I	A	2~3
1151	膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	血清 0.3 冷	2	RIA・固相法	130~400 ng/dL	204 生 I	長期間保存する場合は凍結 してください。 A	3~4
2429	ペプシノゲンセット (PG I・II)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集法	強陽性 30.0 ng/mL以下かつ2.0以下 陽性 70.0 ng/mL以下かつ3.0以下 弱陽性 40.0 ng/mL以下かつ2.5以下	-	A	1~3

70、71ページ参照

※1 (参考)

結核性胸膜炎症例 50.4~154.6 U/L

肺癌症例 10.9~36.1 U/L

心不全等上記以外の症例 3.2~8.8 U/L

※2 前日までにお問い合わせください。

生化学的検査(酵素・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
酵素・関連物質								
1155	アミラーゼ (AMY)	血清 0.5 冷	2	JSCC標準化 対応法	37～125 U/L	11 生 I		1～3
1156		尿 5.0 冷	1		2時間尿: 7.5～51.8 U/hr 随時尿: 80～702 U/L			
1351	P型アミラーゼ (アミラーゼアイソザイム(膵型))	血清 0.5 冷	2	免疫阻害法	17～50 U/L	48 生 I	A	3～4
1171	尿中NAG (N-アセチル-β-D-グルコ サミニダーゼ)	尿 1.0 冷	1	比色法 (合成基質法)	11.5 U/L 以下	41 尿	PH8.0以上のアルカリ尿およびPH4.0以下の酸性尿の場合、測定値が低下する場合があります。 A	3～4
1122	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	血清 0.5 冷	2	比色法	30～81 U/L	11 生 I		1～3
1176	ACE (アンギオテンシン1転換酵素)	血清 0.5 冷	2	比色法 (笠原法)	7.0～25.0 U/L	136 生 I	血漿不可 A	3～4
1180	リゾチーム (ムラミダーゼ)	血清 0.3 冷	2	比濁法	5.0～10.0 μg/mL	-		3～4
1181		尿 1.0 冷	1		0.0 μg/mL			A 3～6
1107	アルドラーゼ (ALD)	血清 0.5 冷	2	UV法	2.7～7.5 U/L (37℃)	11 生 I	A	2～3
1103	LDH (乳酸脱水素酵素)	血清 0.5 冷	2	IFCC法	80～200 U/L	11 生 I	緊急報告値 1,000 U/L 以上 溶血・全血放置検体では高値 となります。	3～4

70、71ページ参照

生化学的検査(アイソザイム, 糖質・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
アイソザイム								
1320	CPK(CK)アイソザイム	血清 0.3 凍	2 ↓ 1	電気泳動法 (アガロース 膜)	BB(CK1) 0~2 % ALB 0~9 % MB(CK2) 0~6 % MM(CK3) 87~98 %	55 生 I	※1 A	3~5
1300	ALPアイソザイム	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース 膜)	ALP ₁ 0.0~5.3 % ALP ₂ 36.6~69.2 ALP ₃ 25.2~54.2 ALP ₄ 0.0 % ALP ₅ 0.0~18.1 % ALP ₆ 0.0 %	48 生 I	 A	3~5
1350	アミラーゼアイソザイム (AMYアイソザイム)	血清 0.3 冷	2	電気泳動法 (アガロース 膜)	P% 15.7~64.0 S% 36.0~84.3 P/S比 0.19~1.79	48 生 I	 A	3~5
1360		尿 1.0 冷	1		P% 38.7~82.3 S% 17.7~61.3 P/S比 0.63~4.65			
1310	LDHアイソザイム	血清 0.3 室	2	電気泳動法 (アガロース 膜)	LDH ₁ 20.0~31.0 % LDH ₂ 28.8~37.0 % LDH ₃ 21.5~27.6 % LDH ₄ 6.3~12.4 % LDH ₅ 5.4~13.2 %	48 生 I	凍結不可 血液凝固後できるだけ速やかに血清分離してください。凍結は厳禁(LD ₄ 、LD ₅ の損失防止)又、低温失活の影響を受けますので4℃以下の保存は避けてください。 A	3~5
糖質・関連物質								
1800	血糖(空腹時) (FBS)	血液 2.0 冷	4	電極法 (グルコース・ オキシダーゼ 法)	70~110 mg/dL (空腹時)	11 生 I	緊急報告値 50 mg/dL 以下 500 mg/dL 以上 フッ化ソーダ入り容器に採血 してください。	1~3
1897	HbA1c(NGSP)	血液 2.0 冷	4 ・ 5	HPLC法	4.6~6.2 %	49 血 ※2		2~3
1893	胎児性ヘモグロビン (HbF)				0.9 % 以下	60 血		2~3
1896	グリコアルブミン (GA)	血清 0.5 冷	2	酵素法	11.6~16.4 %	55 生 I ※2	 A	3~4
		血漿 0.5 冷	7 ↓ 1					
1894	1,5-アンヒドログルシトール (1,5-AG)	血清 0.5 冷	2	比色法	14.0 μg/mL 以上	80 生 I ※2	 A	3~4
1193	ヒアルロン酸	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集法	50.0 ng/mL 以下	179 生 I ※3	肝硬変の判定基準 130 ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合、肝の 線維化が疑われます。) A	3~4

70ページ参照

※1 前日までにお問合わせください。

※2 HbA1c、グリコアルブミン、1,5-アンヒドログルシトールのうち、いずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は月1回に限り主たるもののみ算定します。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。また、クロザピンを投与中の患者については、HbA1cを月1回に限り別に算定できます。

※3 慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます。

生化学的検査(糖質・関連物質, 生体色素・関連物質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容 器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
糖質・関連物質								
1790	ピルビン酸	除蛋白 上清液 0.5 凍	13 ↓ 1	酵素法	0.3～0.9 mg/dL	47 生 I	※1 氷冷1.0N過塩素酸1.0mLに血液1.0mLを入れてよく混和し除蛋白後15～60分静置し、遠心分離を行ってください。上清分離後凍結保存してください。A	3～4
1795	乳酸	除蛋白 上清液 0.5 凍	13 ↓ 1	酵素法	4.2～17.0 mg/dL	47 生 I		3～4
1191	ケトン体分画	血清 0.5 (静脈血) 凍	2 ↓ 1	酵素サイクリング法	総ケトン体 131 μ mol/L 以下 アセト酢酸 55 μ mol/L 以下 3-ヒドロキシ酪酸 85 μ mol/L 以下	59 生 I	※1 血清分離後速やかに凍結してください。総ケトン体にはアセトンが含まれません。A	3～4
1015	シアル酸 (N-アセチルノイラミン酸)	血清 0.5 冷	2	UV rate法	40～71 mg/dL	※2	A	2～3
生体色素・関連物質								
1031	総ビリルビン (T-BIL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0.2～1.0 mg/dL	11 生 I	緊急報告値 12mg/dL 以上	1～3
1032	直接ビリルビン (D-BIL)	血清 0.5 冷	2	酵素法	0～0.4 mg/dL	11 生 I		1～3
1901	コプロポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)1 以下 μ g/dL RBC	210 生 I	遮光保存 A	4～10
1903	ウロポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)1 以下 μ g/dL RBC	-	遮光保存 A	4～10
1904	プロトポルフィリン定量	血液 1.5 (ヘパリン加血) 冷	9	HPLC法	(赤血球)30～86 μ g/dL RBC	272 生 I	遮光保存 A	4～10
1910	尿中コプロポルフィリン定性	尿 6.0 冷	1	比色法 (Brugsh-Fisher法)	(-)	-	遮光保存 A	3～4
1911	尿中コプロポルフィリン定量	尿 3.0 冷	1	HPLC法	8～168 μ g/g・Creatinine	131 尿	遮光保存 A	5～11
1913	尿中ウロポルフィリン定量	尿 3.0 冷	1	HPLC法	2～25 μ g/g・Creatinine	105 尿	遮光保存 A	5～11
1915	尿中ポルフォビリノゲン定量	尿 3.0 凍	1	比色法 (Mauzerall-Granick法)	2.0 mg/day 以下	186 尿	※1 遮光保存 24時間蓄尿し(冷暗所保存)、全尿量を記録後必要量を提出してください。A	6～12

70ページ参照

※1 前日までにお問合わせください。

※2 研究検査のため定常的には検査を実施しておりません。依頼の際は別途ご相談ください。

基準値ならびに臨床的意義が明確にならない項目もございますので、内容をご理解の上、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。

生化学的検査(電解質・無機質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
電解質・無機質								
1230	ナトリウム (Na)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	134～147 mEq/L	11 生 I	緊急報告値(血清) Na 130mEq/L以下,155以上 K 3.0mEq/L以下,6.0以上 Ca 6.0mg/dL以下,14.0以上	1～3
1270		尿 2.0 ※2 冷	1	電極法	4.0～8.0 g/day	※3		
1231	カリウム (K)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	3.5～5.2 mEq/L	11 生 I		1～3
1271		尿 2.0 ※2 冷	1	電極法	1.5～2.5 g/day	※3	※1 全血のまま冷蔵保存は 厳禁。採血後速やかに血清 分離し、冷蔵保存してくださ い。分離不可能な場合は室温 静置してください。	1～3
1232	クロール (Cl)	血清 0.5 ※1 冷	2	電極法	96～109 mEq/L	11 生 I	※2 24時間蓄尿し、全尿量を 記録後必要量を提出してくだ さい。	1～3
1272		尿 2.0 ※2 冷	1	電極法	6.0～12.0 g/day	※3		
1233	カルシウム (Ca)	血清 0.5 ※1 冷	2	比色法 (酵素法)	8.7～11.0 mg/dL	11 生 I		1～3
1273		尿 2.0 ※2 冷	1		0.10～0.30 g/day	※4		
1236	イオン化カルシウム	流パラ 血清 0.9 冷	1	イオン電極法	2.25～2.50 mEq/L (4.5～5.0 mg/dL)	26 生 I	5mL真空採血後、ゴム栓の上 から注射針を刺して流動パラ フィンを1mL注入してください。 室内に30分放置後、血清分 離し、血清と流動パラフィンを 10mLチューブに移してくださ い。 A	3～4
1234	無機リン (IP)	血清 0.5 ※1 冷	2	酵素法	2.5～4.5 mg/dL	17 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。	1～3
1274		尿 2.0 冷	1		0.5～2.0 g/day			
1237	マグネシウム (Mg)	血清 0.5 冷	2	比色法 (キシリジルブ ルー法)	1.7～2.6 mg/dL	11 生 I	24時間蓄尿し、全尿量を記録 後必要量を提出してください。 A	2～3
1275		尿 1.0 冷	1		0.1～0.20 g/day			3～4
1240	血清鉄 (Fe)	血清 0.5 冷	2	比色法 (Nitoroso- PSAP法)	M: 70～200 μg/dL F: 60～180 μg/dL	11 生 I		1～3
1242	総鉄結合能 (TIBC)	血清 0.5 冷	2		290～355 μg/dL	11 生 I ※5		1～3
1241	不飽和鉄結合能 (UIBC)	血清 0.5 冷	2		150～300 μg/dL	11 生 I ※5		1～3
1243	銅 (Cu)	血清 0.5 冷	2	比色法 (3,5-DiBr- PAESA法)	66～130 μg/dL	23 生 I		2～3
1284		尿 5.0 冷	1	原子吸光分光 光度法	36 μg/L 以下			5～11
1244	亜鉛 (Zn)	血清 0.5 冷	1	原子吸光分光 光度法	80～130 μg/dL	132 生 I	指定の容器で採取してくださ い。指定容器以外で採取した 場合、測定値が上昇する場合 があります。 A	3～4
1276		尿 0.5 冷	1		85～1,000 μg/L			

70ページ参照

- ※3 ナトリウム及びクロールは、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定します。
- ※4 カルシウムとイオン化カルシウムを同時に測定した場合は、いずれか一方の点数を算定します。
- ※5 総鉄結合能(TIBC/比色法)、不飽和鉄結合能(UIBC/比色法)を同時に実施した場合は、総鉄結合能(TIBC/比色法)又は不飽和鉄結合能(UIBC/比色法)の点数を算定します。

生化学的検査(機能検査)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
機能検査								
1610	クレアチニンクリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	70～130 mL/min	－	採取方法は22ページを参照ください。	2～3
1612	尿素クリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法 (ウレアーゼ UV法)	Cm62～77 mL/min	－		2～3
1615	24時間内因性 クレアチニンクリアランス	血清 1.0 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	M: 62～108 mL/min F: 57～78 mL/min	－		2～3
1614	尿酸クリアランス	血清 0.5 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	7.8～11.0 mL/min	－		2～3
1650	フィッシュバーグ濃縮試験	尿 各 5.0 冷	1	比重計法	3回のうち少なくとも1回 の比重が1.025以上	100		1～3
1605	ICG試験 (インドサイアニン・グリーン 試験)	血清 各 1.0 冷	2	比色法	停滞率 R 0～10 %	100		1～3
1680	アミラーゼ・クレアチニンク リアランス比 (ACCR)	血清 0.5 尿 3.0 冷	2 ・ 1	酵素法	1.8～2.2 %	－		2～3

機能検査実施スケジュール

検査項目	実施方法
クレアチニンクリアランス 尿素クリアランス	排尿後微温水 500mL飲む 開始 ↓ 約60分 基点 0分 ↑ 完全排尿 B1 30分 ↑ 3mL採血 H1 60分 ↑ 完全採尿 3mL提出 B2 90分 ↑ 3mL採血 H2点 120分 ↑ 完全採尿 3mL提出 各採取時点での時刻, 尿量を記載
24時間内因性 クレアチニンクリアランス	24時間蓄尿 午前6時 完全排尿 ↑ (蓄尿) ↑ 昼食前 ↑ 3mL採血 (蓄尿) ↑ 翌朝6時 (24時間) ↑ 最終採尿 尿量記載 3mL提出
尿酸クリアランス	重曹1gを300mLの水とともに飲む 開始 ↓ 約300mL飲む 30分 ↓ 起点 0分 ↑ 完全排尿 B1 30分 ↑ 3mL採血 H1 60分 ↑ 完全採尿 3mL提出 各採取時点での時刻, 尿量を記載
フィッシュバーグ濃縮試験	覚醒時 0分 H1 ↑ 採尿 5mL提出 1時間 H2 ↑ 採尿 5mL提出 2時間 H3 ↑ 採尿 5mL提出
ICG試験 停滞率 R	ICG体重10kgにつき 1mL静注 開始 ↑ B0 3mL採血 0分 ↓ B1 5分 ↑ 3mL採血 B2 10分 ↑ 3mL採血 B3 15分 ↑ 3mL採血 RはB0,B3の 二回採血提出 検体は遮光 各採取時点での時刻を記載
アミラーゼクレアチニン クリアランス比	早朝空腹時 排尿後水300mL飲む 開始 ↓ 基点 0分 ↑ 完全採尿 (飲水後60分) B1 60分 ↑ 3mL採血 H1 120分 ↑ 完全採尿 3mL提出 各採取時点での時刻, 尿量を記載

生化学的検査(ホルモン 下垂体)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
下垂体								
2010	成長ホルモン (GH)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	(成人) M: 2.47 ng/mL 以下 F: 0.13~9.88 ng/mL	104 生 II	ビオチンを投与している患者 (1日の投与量5mg以上)からの 採血は投与後少なくとも8時 間以上経過してから実施して ください。負荷試験はインスリ ン、アルギニン、ブドウ糖等 ^A	2~4
2000	ソマトメジンC (IGF-1)	血清 0.5 凍 血漿 0.5 凍	2 ↓ 1 7 ↓ 1	ECLIA法	下欄参照	212 生 II	※1 採血後速やかに遠心分離凍 結保存してください。ビオチン を投与している患者(1日の投 与量5mg以上)からの採血は 投与後少なくとも8時間以上 経過してから実施してくださ い。 ^A	3~4
2020	プロラクチン (PRL)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	M: 3.6~12.8 ng/mL F: 6.1~30.5 ng/mL	98 生 II	負荷試験は合成TRH500 μ g を静注する。 ^A	2~4
2030	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	血漿 0.4 凍	7 ↓ 1	ECLIA法	7.2~63.3 pg/mL	184 生 II	※1 溶血は低値の影響がありま す。速やかに冷却遠心後血 漿分離凍結保存してくださ い。負荷試験はメピロン等 ^A	3~4
3478	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	0.350~4.94 μ IU/mL	98 生 II	^B	3~6
2060	黄体形成ホルモン (LH)	血清 0.6 冷	2	CLIA法	F: 卵泡期 1.8~10.2 排卵期 2.2~88.3 黄体期 1.1~14.2 閉経後 5.7~64.3 M: 0.8~5.7 mIU/mL	105 生 II	負荷試験は合成LH-RH100 μ gを静注する。 ^A	2~4
2070	卵泡刺激ホルモン (FSH)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	F: 卵泡期 3.0~14.7 排卵期 3.2~16.6 黄体期 1.5~8.5 閉経後 157.8 以下 M: 2.0~8.3 mIU/mL	105 生 II	負荷試験は合成LH-RH100 μ gを静注する。 ^A	2~4

※1 前日までにお問合わせください。

●ソマトメジンC(IGF-1) 基準値

70ページ参照

男性

年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	11~149	27	116~322	54	84~239
1	14~148	28	114~315	55	84~238
2	18~154	29	111~309	56	83~237
3	24~164	30	109~303	57	82~236
4	32~176	31	107~297	58	81~235
5	44~193	32	105~292	59	80~233
6	55~215	33	103~287	60	79~232
7	63~247	34	102~283	61	77~230
8	72~292	35	100~279	62	76~228
9	84~350	36	99~275	63	75~226
10	99~423	37	97~272	64	73~224
11	113~499	38	96~269	65	72~221
12	125~557	39	95~266	66	70~219
13	133~579	40	94~263	67	68~216
14	138~570	41	94~261	68	66~213
15	141~552	42	93~259	69	65~209
16	142~543	43	92~257	70	63~206
17	142~540	44	92~255	71	61~202
18	142~526	45	91~253	72	58~198
19	143~501	46	90~250	73	56~194
20	142~470	47	90~250	74	54~190
21	139~436	48	89~248	75	52~185
22	135~405	49	88~246	76	50~181
23	131~379	50	87~245	77	48~177
24	158~356	51	87~243	78	45~172
25	125~337	52	86~242	79	43~167
26	119~329	53	85~240	80以上	41~163

(単位: ng/mL)

女性

年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD	年齢	-2SD~+2SD
0	15~154	27	141~328	54	76~211
1	23~186	28	137~320	55	75~210
2	32~213	29	133~312	56	74~208
3	40~227	30	129~304	57	73~207
4	48~238	31	126~297	58	72~205
5	56~252	32	122~290	59	71~203
6	69~287	33	119~283	60	70~201
7	89~357	34	115~277	61	69~198
8	111~438	35	112~271	62	68~196
9	133~517	36	109~265	63	66~194
10	155~588	37	106~260	64	65~191
11	175~638	38	103~254	65	64~188
12	188~654	39	100~250	66	62~186
13	193~643	40	98~245	67	61~183
14	193~625	41	95~240	68	60~180
15	192~614	42	93~236	69	59~177
16	192~611	43	90~233	70	57~175
17	191~599	44	88~229	71	56~172
18	188~574	45	87~226	72	55~170
19	182~539	46	85~224	73	54~167
20	175~499	47	83~221	74	53~165
21	168~459	48	82~219	75	52~163
22	161~425	49	81~218	76	50~160
23	155~397	50	80~216	77	49~158
24	151~375	51	79~215	78	48~155
25	147~358	52	78~213	79	44~152
26	146~336	53	77~212	80以上	43~149

(単位: ng/mL)

生化学的検査(ホルモン 副腎皮質・副腎髄質)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
副腎皮質・副腎髄質								
2160	コルチゾール	血清 0.5 冷	2	CLIA法	AM 8時～10時 4.5～21.1 $\mu\text{g/dL}$	121 生Ⅱ	原則としてAM 8～10時に採血してください。プレドニゾンなどの副腎皮質ホルモン剤を投与している場合は高値の可能性があります。 A	2～4
2164		尿 1.0 冷	1	CLIA法	4.3～176.0 $\mu\text{g/day}$	121 生Ⅱ	非抱合型コルチゾールを測定しています。24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください。 A	3～4
2190	11-OHCS	血清 2.1 冷	2	蛍光法 (De Moore 臼井変法)	AM 8時～10時 5.0～21.4 $\mu\text{g/dL}$	60 生Ⅱ	原則としてAM 8～10時に採血し、速やかに遠心後血清分離し、冷蔵してください。 A	4～10
2150	レニン活性 (PRA)	血漿 0.7 凍	7 ↓ 1	EIA法	臥位 0.2～2.3 ng/mL/hr 座位 0.2～3.9 ng/mL/hr	100 生Ⅱ ※2	※1 ヘパリン血漿不可 早朝安静状態で採血し、速やかに冷却遠心後血漿分離し、凍結してください。溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります。 A	3～4
2154	活性型レニン定量 (ARC)	血漿 0.5 凍	7 ↓ 1	CLEIA法	2.21～39.49 pg/mL	102 生Ⅱ ※2	※1 早朝15分以上座位にて安静後、指定の容器に採血してください。十分混和し速やかに遠心、血漿分離してください。 A	3～4
2250	アルドステロン	血漿 0.5 凍	7 ↓ 1	CLEIA法	4.0～82.1 pg/mL	122 生Ⅱ	※1 早朝15分以上座位にて安静後、指定の容器に採血してください。十分混和し速やかに遠心、血漿分離してください。 A	3～4
2254		尿 1.0 凍	1		1.0～19.3 $\mu\text{g/day}$		※1 添加剤無しで24時間蓄尿し、尿量測定後、速やかに必要量を凍結して提出してください。ご依頼時に尿量をご記入ください。 A	4～6
2425	セロトニン	血液 1.1 (EDTA2K 加血) 凍	20	HPLC法	81.0～262.0 ng/mL	—	※1 全血のまま凍結してください。 A	6～12
2430	5-ハイドロキシインドール 酢酸 (5-HIAA)	酸性尿 1.0 冷	1	LC-MS/MS法	0.5～5.0 mg/day	95 生Ⅱ	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください。尿量の少ない場合は100mLに対して6N塩酸1.5mLの割合で入れてください。pH3.0以下に保持してください。 A	4～5

70ページ参照

※1 前日までにお問合わせください。

※2 レニン活性と活性型レニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定します。

生化学的検査(ホルモン 副腎髄質, 膵・消化器)

項目 コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容 器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
副腎髄質								
2280	カテコールアミン3分画	血漿 1.1 凍	7 ↓ 1	HPLC法	アドレナリン 0.10 ng/mL 以下 ノルアドレナリン 0.10～0.50 ng/mL ドーパミン 0.03 ng/mL 以下	161 生Ⅱ	※1 安静臥位状態で採血し、速やかに冷却遠心後血漿分離し、凍結してください。 A	4～5
2290		酸性尿 1.0 冷	1	HPLC法	アドレナリン 3.0～41.0 μg/day ノルアドレナリン 31.0～160.0 μg/day ドーパミン 280.0～1100.0 μg/day	161 生Ⅱ	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください。尿量の少ない場合は100mLに対して6N塩酸1.5mLの割合で入れてください。pH3.0以下に保持してください。 A	
2300	メタネフリン分画	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	メタネフリン 0.04～0.18 mg/day ノルメタネフリン 0.10～0.28 mg/day	220 生Ⅱ	6N塩酸20mL入り容器に24時間蓄尿し、全尿量を記録後必要量を提出してください。尿量の少ない場合は100mLに対して6N塩酸1.5mLの割合で入れてください。pH3.0以下に保持してください。	5～6
2311	VMA (バニールマンデル酸)	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	蓄尿 1.50～4.90 mg/day 随時尿 2.10～5.00 mg/g・cre	90 生Ⅱ		4～5
2315	HVA (ホモバニリン酸)	酸性尿 2.0 冷	1	LC-MS/MS法	蓄尿 2.40～6.00 mg/day 随時尿 2.20～5.80 mg/g・cre	69 生Ⅱ		4～5 A
膵・消化器								
3471	インスリン (IRI)	血清 0.3 冷	2	CLIA法	1.7～10.4 μU/mL (空腹時負荷前)	100 生Ⅱ	溶血不可 B	3～4
2326	インスリン抗体	血清 0.5 冷	2	RIA法	濃度 0.4 U/mL 未満	107 免	A	5～8
1860	C-ペプチド (CPR)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	0.8～2.5 ng/mL	105 生Ⅱ ※2	ビオチンを投与している患者 (1日の投与量5mg以上)からの 採血は投与後少なくとも8時 間以上経過してから実施して ください。 A	3～4
1872		尿 1.0 凍	1		22.8～155.2 μg/day		※1 ビオチンを投与している患者 (1日の投与量5mg以上)からの 採血は投与後少なくとも8時 間以上経過してから実施して ください。 蓄尿は冷所で行い、予め畜尿 容器にI-XB53尿-Cペプチド安 定化剤を入れ蓄尿し、蓄尿量 を記録し必要量を凍結してご 提出ください。なお、I-XB53尿 -Cペプチド安定化剤を使用し た検体は他項目に影響を与 えることから他項目との共用 依頼は避けてください。 A	

70ページ参照

※1 前日までにお問合わせください。

※2 同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定します。

生化学的検査(ホルモン 性腺)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
性腺								
2362	エストラジオール (E ₂)	血清 0.7 冷	2	CLIA法	M: 19.0~51.0 F: 卵胞期 19.0~226.0 排卵期 49.0~487.0 黄体期 78.0~252.0 閉経期 39.0 以下 妊娠中 前期 780.0~16,631.0 中期 1,146.0~36,635.0 後期 5,452.0~44,915.0 pg/mL	167 生Ⅱ	薬剤フルベストラントを投与している場合は、高値の可能性 があります。 A	2~4
2375	プロゲステロン (黄体ホルモン)	血清 0.5 冷	2	CLIA法	M: 0.6 以下 F: 卵胞期 0.4 以下 排卵期 3.7 以下 黄体期 8.5~21.9 妊娠中 前期 23.9~141.4 中期 25.7~142.9 後期 51.2~325.8 ng/mL	139 生Ⅱ	A	2~4
2380	HCG定量 (ヒト絨毛性ゴナドトロピン定 量)	血清 0.6 冷	2	ECLIA法	M: 3.0以下 F: 非妊婦 3.0以下 妊娠 1週 0~50 2週 20~500 3週 500~5,000 4週 3,000~19,000 2ヶ月 14,000~169,000 3ヶ月 16,000~160,000 6ヶ月 2,500~82,000 9ヶ月 2,400~50,000 mIU/mL	130 生Ⅱ ※1	ビオチンを投与している患者 (1日の投与量5mg以上)からの 採血は投与後少なくとも8時 間以上経過してから実施して ください。 A	3~5
2396		尿 2.0 冷	1	ECLIA法	M: 3.0以下 F: 非妊婦 3.0以下 妊娠 6週 15,000~30,000 10週 90,000~120,000 20週 未設定 40週 未設定 mIU/mL	130 生Ⅱ ※1		
2386	HCG β サブユニット	血清 0.5 冷	2	CLIA法	1.00 ng/mL 未満	129 生Ⅱ ※1	A	3~5
2350	テストステロン	血清 0.7 冷	2	CLIA法	M: 142.4~923.1 ng/dL F: 10.8~56.9 ng/dL	119 生Ⅱ	A	2~4

70ページ参照

※1 HCG β サブユニットはHCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できます。
HCG定性、HCG半定量又はHCG定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定します。

生化学的検査(ホルモン 甲状腺, 副甲状腺, その他)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
甲状腺								
2100	T ₃ (トリヨードサイロニン)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	80～160 ng/dL	99 生Ⅱ	A	2～4
2121	T ₄ (サイロキシン)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	6.1～12.4 μg/dL	105 生Ⅱ	A	2～4
3479	F-T ₄ (遊離サイロキシン)	血清 0.4 冷	2	CLIA法	0.7～1.48 ng/dL	121 生Ⅱ	B	3～6
3480	F-T ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	血清 0.4 冷	2	CLIA法	1.68～3.67 pg/mL	121 生Ⅱ	B	3～6
2140	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	血清 0.3 凍	2	CLEIA法	14.0～31.0 μg/mL	130 生Ⅱ	※1 A	5～8
2141	サイログロブリン (Tg)	血清 0.4 冷	2	ECLIA法	33.70 ng/mL 以下	128 生Ⅱ	A	3～4
2142	抗サイログロブリン抗体 (TgAb)	血清 0.5 冷	2	ECLIA法	28.0 IU/mL 未満	136 免	A	2～4
副甲状腺								
2344	PTH-INTACT (副甲状腺ホルモン- INTACT)	血清 0.5 凍	2 ↓ 1	ECLIA法	10～65 pg/mL	161 生Ⅱ	※1 A	3～4
2420	カルシトニン	血清 0.5 凍	2 ↓ 1	ECLIA法	M: 5.15 pg/mL 以下 F: 3.91 pg/mL 以下	127 生Ⅱ	※1 A	3～4
その他								
2633	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペ プチド)	血漿 0.5 凍	7 ↓ 1	CLIA法	18.4 pg/mL 以下	130 生Ⅱ ※2	※1 A	3～4
2641	NT-pro BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペ プチド前駆体N端フラグメン ト)	血清 0.5 冷 血漿 0.5 冷	2 7 ↓ 1	ECLIA法	125 pg/mL 以下	136 生Ⅱ ※2		3～4
2634	HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿 ペプチド) (ANP)(α-ANP)	血漿 0.5 凍	7 ↓ 1	CLEIA法	43.0 pg/mL 以下	221 生Ⅱ ※2	※1 採血後速やかに血漿分離し 凍結保存してください。 溶血の場合は低値となりま す。 A	3～4
2635	エリスロポエチン (EPO)	血清 0.7 冷	2	CLEIA法	4.2～23.7 mIU/mL	209 生Ⅱ ※3	A	3～4

70ページ参照

※1 前日までにお問合わせください。

※2 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合につき1回に限り算定します。BNPとNT-proBNP、HANPのうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定します。

BNPとNT-proBNP、HANPのうち2項目以上実施した場合は、各々の検査実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載してください。

※3 以下のいずれかの目的で行った場合に算定します。

- ・赤血球増加症の鑑別診断
- ・重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴルもしくはHIF-PH阻害剤投与前の透析患者における腎性貧血の診断
- ・骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

生化学的検査(ビタミン)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
ビタミン								
2505	ビタミンA	血清 0.3 冷	2 ↓ 1	HPLC法	27.2～102.7 $\mu\text{g/dL}$	-	遮光保存 A	5～11
2510	ビタミンB ₁ (チアミン)	血液 0.6 凍	19	LS-MS/MS法	21.3～81.9 ng/mL	239 生 I	※1 遮光保存 専用のプラスチック容器で 全血のまま凍結してください。 A	4～5
2516	ビタミンB ₂ (リボフラビン)	血漿 1.1 凍	9 ↓ 1	HPLC法	1.7～4.6 $\mu\text{g/dL}$	231 生 I	※1 遮光保存 遠心分離後、上清を必ずプラ スチック容器で凍結してくだ さい。 A	4～8
		血清 1.1 凍	2 ↓ 1					
2520	ビタミンB ₆	血清 1.0 冷	2 ↓ 1	HPLC法	M PAM 0.6以下 0.6以下 PAL 6.0～40.0 4.0～19.0 PIN 3.0以下 3.0以下 ng/mL	-	遮光保存 A	4～10
2525	ビタミンB ₁₂ (シアノコバラミン)	血清 0.6 冷	1	CLIA法	233～914 pg/mL	136 生 I	A	2～4
2530	ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.7 凍	1 ↓ 1	HPLC法	4.7～17.8 $\mu\text{g/mL}$	296 生 I	※1 遮光保存/絶対凍結 単独検体 シュウ酸二水和物1mgを入 れた汎用スピッツ(容器番号1)に 血液8mLを入れ、速やかに混 和後遠心分離を行い、血清を 分注して遮光凍結保存し提出 してください。必ず提出日に採 血してください。 A	4～10
2535	葉酸	血清 0.7 冷	2	CLIA法	3.6～12.9 ng/mL	146 生 I	溶血は高値の影響がありま す。 A	2～4

※1 前日までにお問合わせください。

70ページ参照

生化学的検査(薬剤)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
薬剤								
2701	ジゴキシン	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 0.8~2.0ng/mL 中毒濃度 2.5 ng/mL 以上	※1	販売名 ジゴキシン、ジゴシン、ハーフ ジゴキシン 一部のジギタリス剤と交差反 応を示します。 A	2~3
2740	プロカインアミド (プロカインアミド塩酸塩)	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 4.00~8.00 μg/mL 中毒濃度 12.00 μg/mL 以上	※1	販売名 アミサリン A	3~5
2746	リドカイン (リドカイン塩酸塩)	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 1.5~5.0 μg/mL 中毒濃度 9.0 μg/mL 以上	※1	販売名 静注用キシロカイン、リドカ イン A	3~9
2744	ピルシカイニド (ピルシカイニド塩酸塩水 和物)	血漿 0.3 凍 血清 0.3 凍	9 ↓ 1 2 ↓ 1	LC-MS/MS法	治療有効濃度 0.20~0.90 μg/mL	※1	※2 販売名 サンリズム、ピルシカイニド 感受性に対する個体差が大 きいため、有効血中濃度はあ くまでも目安です。 A	4~6
2715	フェニトイン (フェニトイン、フェニトインナ トリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 トラフ値 小児:10.0~20.0 μg/mL 新生児:8.0~15.0 μg/mL	※1	販売名 複合アレビアチン、ヒダント ール、アレビアチン A	2~3
2720	フェノバルビタール (フェノバルビタール、フェノ バルビタールナトリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 トラフ値 10.0~40.0 μg/mL	※1	販売名 複合アレビアチン、ヒダント ール、ノーベルバル、フェノ バル、ルピアール、ワコビ タール、フェノバルビタール A	2~3
2725	プリミドン	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 5.0~12.0 μg/mL	※1	販売名 プリミドン A	2~3
2730	カルバマゼピン	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 4.0~12.0 μg/mL 他の抗てんかん薬併用 4.0~8.0 μg/mL	※1	販売名 テグレトール、カルバマゼピン A	2~3
2735	バルプロ酸 (バルプロ酸ナトリウム)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝 集比濁法	治療有効濃度 50~100 μg/mL	※1	販売名 デパケン、セレニカ、バルプロ 酸ナトリウム A	2~3
2710	エトスクシミド	血清 0.5 冷	2	EIA法	治療有効濃度 40.0~100.0 μg/mL	※1	販売名 エピレオプチマル、ザロンチン A	3~9
2743	ニトラゼパム	血清 0.3 凍	2 ↓ 1	LC-MS/MS法	治療有効濃度 20.0~100.0 ng/mL	※1	※2 販売名 ベンザリン、ネルボン、ニトラ ゼパム A	4~5

※1 特定薬剤治療管理料です。

※2 前日までにお問合わせください。

生化学的検査(薬剤)

項目コード	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
薬剤								
2742	プロプラノロール (プロプラノール塩酸塩)	血清 0.3 冷 血漿 0.3 冷	2 ↓ 1	HPLC法	治療有効濃度 50.0～100.0 ng/mL	※1	販売名 インデラル、プロプラノロール A	7～20
2755	メトトレキサート	血清 0.5 冷	2	EIA法	中毒域(大量投薬時) 24時間 10.00 μ mol/L 以上 48時間 1.00 μ mol/L 以上 72時間 0.10 μ mol/L 以上	※1	販売名 メソトレキセート A	3～4
2745	サリチル酸 (アスピリン,アセチルサリチル酸)	血清 0.5 冷	2	酵素法	治療有効濃度 150～300 μ g/mL 中毒濃度 300 μ g/mL 以上	※1	販売名 アスピリン A	3～5
2750	テオフィリン (テオフィリン,アミノフィリン水和物)	血清 0.5 冷	2	ラテックス凝集比濁法	治療有効濃度 成人: 5.0～15.0 μ g/mL 乳児: 5.0～10.0 μ g/mL 中毒濃度 25.0 μ g/mL 以上	※1	薬剤名 アミノフィリン、キョーフィリン、ネオフィリン、テオドール、テオロング、ユニコン、ユニフィル、アブニション、テオフィリン A	2～3
2770	シクロスポリン	血液 0.5 凍	20	CLIA法	ng/mL	※1	※2 ヘパリン不可 全血のまま凍結してください。 販売名 サンディミュン、ネオオーラル、シクロスポリン A	3～4
2700	リチウム (Li) (炭酸リチウム)	血清 0.5 冷	2	原子吸光分光光度法	治療有効濃度 0.60～1.20 mEq/L 中毒濃度 2.00 mEq/L 以上	※1	販売名 リーマス、炭酸リチウム A	3～4
2741	ハロペリドール (ハロペリドール,ハロペリドールデカン酸エステル)	血清 0.5 冷	2	金コロイド凝集法	治療有効濃度 3.0～17.0 ng/mL	※1	販売名 セレネース、ハロペリドール、ハロマンس A	2～3

※1 特定薬剤治療管理料です。

※2 前日までにお問合わせください。

生化学的検査(産業医学検査)

項目 コード	検査項目		検体 必要量(mL) 保存	容 器	検査方法	基準値	実施料 区分	備考	報告 日数
産業医学検査									
2910	馬尿酸 (トルエンの代謝物として)		尿 1.0 冷	1	HPLC法	下欄参照	－	連続した作業日の最初の日を除いた作業終了時に採取してください。ただし、作業終了2時間前に一度排尿してください。	4～5
2911	メチル馬尿酸分画 (キシレンの代謝物として)		尿 1.0 冷	1	HPLC法	下欄参照	－		4～5
2912	マンデル酸 (エチルベンゼンの代謝物として)		尿 1.0 冷	1	LC-MS法		－		5～8
2915	2,5-ヘキサンジオン (ノルマルヘキサンの代謝物として)		尿 3.0 冷	1	GC-MS法	下欄参照	－		5～8
2913	N-メチルホルムアミド (N,N-ジメチルホルムアミドの代謝物として)		尿 3.0 冷	1	GC法	下欄参照	－		5～8
2916	総三塩化物	1,1,1-トリクロロエタン代謝物	尿 1.0 冷	1	GC法	下欄参照	－	連続した作業日の最初の日を除いた作業終了時に採取してください。ただし、作業終了2時間前に一度排尿してください。	4～7
2917		トリクロロエチレン代謝物							
2918		テトラクロロエチレン代謝物							
2920	トリクロロエタン代謝物	尿 1.0 冷	1	GC法	下欄参照	－	4～7		
2921	トリクロロエチレン代謝物								
2922	テトラクロロエチレン代謝物								
A									

産業医学検査 鉛健康診断

項目コード*	検査項目	検体 必要量(mL) 保存	容器	検査方法	基準値	実施料 区分	分布 ●1			備考	報告 日数
							1	2	3		
2650	血中鉛(Pb)	血液 0.5 冷	9	原子吸光分光光度法	μg/dL	-	20 以下	20 超 40 以下	40 超	A	4~8
5636	尿中デルタアミノレブリン酸 定量(δ-ALA定量)	尿 1.0 冷	1	HPLC法	mg/L	106 尿 ※1	5 以下	5 超 10 以下	10 超	A	4~6
1905	赤血球遊離プロトポルフィリン(FEP)	血液 1.4 冷・遮光 (ヘパリン加血)	9	蛍光法	μg/dL 赤血球	-	100 以下	100 超 250 以下	250 超	A	4~17

※1 鉛健康診断として実施された場合は、保険算定の対象外です。

有機溶剤健康診断 尿中の代謝物の測定が必要な有機溶剤名

依頼 コードNo.	有機溶剤の名称	検査項目	単位	分布 ●1		
				1	2	3
2910	トルエン	尿中の馬尿酸	g/l	1 以下	1 超 2.5 以下	2.5 超
2911	キシレン	尿中のメチル馬尿酸	g/l	0.5 以下	0.5 超 1.5 以下	1.5 超
2912	ステレン	尿中のマンデル酸	g/l	0.3 以下	0.3 超 1 以下	1 超
2915	ノルマルヘキサン	尿中の2,5-ヘキサンジオン	mg/l	2 以下	2 超 5 以下	5 超
2913	N,N-ジメチルホルムアミド	尿中のN-メチルホルムアミド	mg/l	10 以下	10 超 40 以下	40 超
2920	1,1,1-トリクロロエタン	●2 尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	3 以下	3 超 10 以下	10 超
2916		●2 尿中の総三塩化物	mg/l	10 以下	10 超 40 以下	40 超
2921	トリクロロエチレン	●2 尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	30 以下	30 超 100 以下	100 超
2917		●2 尿中の総三塩化物	mg/l	100 以下	100 超 300 以下	300 超
2922	テトラクロロエチレン	●2 尿中のトリクロロ酢酸	mg/l	3 以下	3 超 10 以下	10 超
2918		●2 尿中の総三塩化物	mg/l	3 以下	3 超 10 以下	10 超

- 1 分布1, 2, 3, と分けている数値は、厚生労働省がこの分布の属する人数を行政的に把握するために設定したものであって、結果を判定する基準となるものではありません。したがってこの数値で診断したり判定したりはしないこととされています。
- 2 クロロ炭化水素に係る尿中代謝産物の検査については、検査項目が同一であるので、これらの有機溶剤を2種以上使用している場合は、検査結果の評価については考慮する必要があります。